

よび地域社会の物的、人的、文化的条件によつて強く規定されます。もしこれらの条件が悪ければ、幼稚園や保育所での保育の効果がありません。幼児達を園(所)で指導する時、どんなに保育者が一生懸命努力しても、もし家庭で少しもこれに協力しなかつたり、地域社会の環境が悪いと、保育者の努力が水泡に帰してしまふこともあります。したがつて、幼児を本当に幸福にするには、幼児の成長の成長発達を真に理解させ、子供をよく導く方法を教示するといふように、家庭および地域社会を啓蒙し、史に幼児の健全な人格の形成に対して、その積極的な協力を得るよう働きかけることも保育者の重要な任務の一つです。

五、保育者自身の精神的健康を増進すること。

保育者の仕事は聖業であるといわれながら、その社会的評価は必ずしも高くはありません。又待遇もあまりよくなく、保育の面においても理想と現実との矛盾にぶつかるなど多くの悩み、障碍に直面してい

ます。しかも、今日のように絶えず目まぐるしく変化しつづつある社会において、絶えず成長発達しつづつある幼児を相手に仕事をしつてゆくことはきわめて困難なことです。で、保育者の任務を遂行するためには、保育者自身が絶えず自己を教育し、自己改造をすることによつて、自己の精神的健康を保ち、増進してゆくことが必要です。したがつて、保育者自身の精神衛生は、保育者のすべての任務遂行の基礎として、いつも配慮されるべきことであつて、それ自体保育者の任務の一つであると考えることができます。このことについては前に「保育者の精神衛生」(「幼児の教育」第五十二巻第十号、第十二号)として述べましたので、ここでは省略することにします。

× × × × ×

図 書 紹 介 一

子供を見る眼 守屋光雄著—心身をすこやかに育てるために—創元社刊(二九〇円)
 「乳幼児心理学」 「児童心理学研究」などの専門的著書で有名な著者が、このごろの幼児教育の實際にふれての折々に書かれた感想を集めたものである。通俗的な書物にありがちな氣どつたところもなく、氣持よく読むことができる。短かい感想の中にも、實際にあつて教えられるヒントも多く、また、現代の心理学の理論がやさしく顔を出している。現代の幼児教育について、著者はいつている。「昔の教師中心から子ども中心へ、授ける教育から引出す教育へ、模倣、画一の保育から創造、個性の保育へ変つてきたのです。しかし中には、まだ上から一つの型をもつて、何かを教えこむ——私は「ぬり絵」的保育と云つていますが、——所が少なくないようです。子どもにかしつている先生が、まだまだあるようで、しかもこんな先生が、手の行きとどく先生としてお母さん方から歓迎される有様です。……先生自身が、さらに保育の理論と技能を身につけて、親の見栄や圧力に屈しないようになってほしいものです」(津守 真)